


# 加太地区

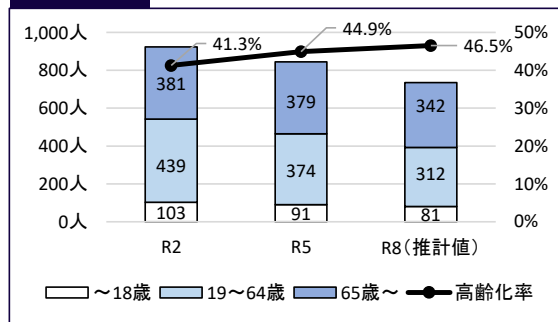
## ◆概要

	【位置図】	まち協名	加太地区まちづくり協議会		
		所在地	亀山市加太板屋4622-1	電話	0595-98-0008
		地区構成	市場 向井 梶ヶ坂 板屋 神武 北在家 中在家		
		地域特性	亀山市の西端にあり伊賀市に隣接し、7地区で構成されています。小学校、保育所、加太出張所、林業総合センター等があり、地域住民による活動も活発です。また、森林公園「やまびこ」、東海自然歩道、加太の森テラス等自然に恵まれ、川俣神社や鹿伏兔城跡、鉄道遺産群の散策ルート整備もあり、景観と歴史を求めるハイカーが近年増加傾向にあります。交通面は、JR西日本関西本線と大阪・名古屋を結ぶ名阪国道が並走する形で東西にのびています。		
面積	3,757.2ha	ホームページ	<a href="https://kabutomachi.jimdofree.com/">https://kabutomachi.jimdofree.com/</a>		
めざす姿	美しい加太、元気な加太、誇りある加太				
地域の誇り	緑豊かな山林資源、美しい山村風景、加太越え奈良道や鹿伏兔城跡などの歴史的遺産がある				

## ◆人口

	令和2年	令和5年	令和8年 (推計値)	増減	
総人口	923人	844人	735人	-79人	
人口密度	0.25人/ha	0.22人/ha	0.20人/ha	-0.02人/ha	
65歳以上	人口	381人	379人	342人	-2人
	比率	41.3%	44.9%	46.5%	3.6%
18歳以下	人口	103人	91人	81人	-12人
	比率	11.2%	10.8%	11.0%	-0.4%
外国籍	人口	11人	8人		-3人
	比率	1.2%	0.9%		-0.2%

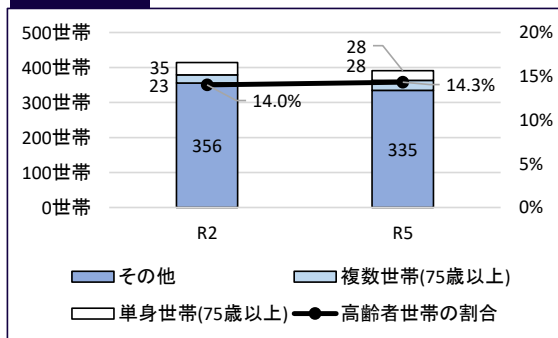
## ◆人口推移



## ◆世帯

	令和2年	令和5年	増減
総世帯	414世帯	391世帯	-23世帯
単身世帯 (75歳以上)	35世帯	28世帯	-7世帯
複数世帯 (75歳以上)	23世帯	28世帯	5世帯
高齢者世帯割合	14.0%	14.3%	0.3%

## ◆世帯推移



## ◆介護保険認定者

	令和2年	令和5年	増減
要支援1.2	23人	22人	-1人
要介護1～5	69人	60人	-9人
合計	92人	82人	-10人

## ◆地域組織

	令和2年	令和5年	増減
自治会	7	7	0
老人クラブ	0	0	0
子ども会	1	1	0

◆福祉・医療・教育等に関する社会資源

民生委員・児童委員	4
主任児童委員	1
福祉委員	7
介護保険施設・事業所	0
サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム	0
障がい福祉施設・事業所	0
児童福祉施設・事業所	0
病院・一般診療所	0
歯科診療所	0
薬局	0
保育所	1
幼稚園	0
認定こども園	0
放課後児童クラブ	1
放課後子ども教室	1
子育て支援センター	0
学校(小・中・高)	1
乗り合いタクシー停留所	19

◆担当地域包括支援センター

亀山第2地域包括支援センター もくれん

◆サロン活動

	令和2年	令和5年	増減
ふれあい・いきいきサロン	3	2	-1
子育てサロン	0	0	0
コミュニティサロン	0	0	0

◆福祉委員会活動

◆構成員 まち協役員 民生委員・児童委員 福祉委員

◆活動内容

【訪問活動】

75歳以上高齢者宅安心見守り訪問活動を年2回行って  
います。



加太秋まつり



寄せ植え作り

◆まちづくり協議会の恒例事業

- ・加太地区運動会
- ・加太秋まつり
- ・寄せ植え作り
- ・地域めぐり
- ・高齢者見守り活動
- ・景観維持活動
- ・加太桜まつり
- ・加太駅舎を利用した地域活性化事業

◆生活支援コーディネーターからのコメント

加太地区の人口は844人で、そのうち44.9%にあたる379人は65歳以上です。地域内391世帯のうち、14.3%にあたる56世帯が75歳以上のみで構成されています。また、地域内人口の0.9%にあたる8人が外国籍です。地域の特色として、近年は空き家も目立つようになってきましたが、昔から顔の見える関係性ができており、住民同士の見守りが自然に行われています。地域活動として、令和5年11月には加太小学校において秋祭りを開催し、地域住民の作品展示や音楽演奏、手作りモルック体験など世代を超えて交流を図りました。加太駅舎内にある「加太サロン」は令和4年4月にオープンし、展示や交流の場として、のべ4,000名以上が訪れています。また、加太鉄道遺産研究会とともに年1回鉄道遺産をめぐるツアーを開催し、多くの人が参加しています。高齢化に伴う空き家の増加や人口減少が課題となってきていますが、地区内にある資源を活用しながら地域の魅力を発信し、地区内外の人たちを取り込みつつ、いつまでも安心して暮らしていける体制づくりが進んでいくことが期待されます。